

第2学年 国語科学習指導案

日時 平成27年10月8日(木) 5校時

児童 男子5名 女子8名 計13名

1 単元名 音読劇をしよう(光村図書 小学校2年下)

教材名 お手紙

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、以下の学習指導要領の領域の目標と内容を具現化する学習内容である。

1 目標

(3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。

C 読むこと

(1) ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。

ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。

「お手紙」は、友だちの不幸と一緒に悲しみ、幸せを共に喜ぶほのぼのとした心情を描いた作品である。特別な事件が起こるわけでもなく、四日遅れの、しかも内容の分かっている「お手紙」を、仲良く待つ二人。友だちどうしの心の交流は、読み手までも幸せな気持ちにさせる。

本教材は「本教材は「〇〇が言いました。」を除くと七割以上が会話文からなる作品である。会話の際の二人の位置、距離、しぐさ、顔の向きを考えることで、二人の心情と心の通い合いを読み取ることができる。さらに、登場人物が個性豊かであり、場面は「がまくんの家」と「かえるくんの家」の二場面であるという点も、音読劇にするのにふさわしい作品である。

(2) 児童について

児童は、「ふきのとう」の音読で役に分かれて音読することを経験している。また、聞く人によく分かるように音読するには、人物の様子やしていることに気をつけて読み方を考えるということも学習した。しかし、個人差も見られる。「スイミー」では、感想を書く活動や登場人物の気持ちを考えながら役に分かれて音読をする活動などを経験している。音読に関しては、自分なりに工夫をして登場人物になりきって読んでいる児童がいる反面、まだ、正しく読むことが不十分な児童もいる。

「どうぶつ園のじゅうい」では、順番を示す言葉に気を付けて、順序よく説明したり、話したりする学習を行った。じゅういさんの仕事や仕事の工夫についても的確に話せるようになった児童が増えた。また、発言の理由をつけて発言できる児童も増えてきた。

(3) 指導にあたって

本単元では、アルベルト＝ローベルの作品の中からもう一つ選んで、音読劇を練習し、1年生に発表する活動を単元のゴールとして設定する。

本作品は、二人の登場人物の行動を中心に、場所や時間の移り変わりがはっきり描かれた

作品である。物語の展開に沿って、「がまくん」と「かえるくん」の行動がどう変わっていくかを読み取らせたい。また、お手紙を待つ二つの場面の違いを、挿絵や叙述から読み取らせるなど、細かい点に注意しながら作品を味わう指導も合わせて行いたい。

音読劇については、2年生になって初めて取り組むことから、新鮮で学習意欲を喚起するように取り組ませたい。

実際の授業では、登場人物の行動や会話に着目させて場面の様子や登場人物の心情を想像させたい。さらに、挿絵からも場面の様子が想像できることにも気づかせ、音読に生かすようにしていきたい。このような読み取りが、音読劇の発表に向けてつながるようにしていきたい。最後には、1年生へ発表する場面もあり、聞いている人へ心を込めて音読し、気持ちを伝えるということも教えていきたい。

第1次では、教師が音読劇を行い、興味を持たせることにより、音読劇を作って1年生に発表しようという流れの計画を立てていく。登場人物になりきって音読するということは、2年生の児童にとっては楽しく意欲的に取り組むことのできる活動であり、場面の様子について、登場人物の会話や行動を基に想像を広げながら読むことができる活動である。

第2次では、個人で音読シナリオに読み方や動作などを書き入れてから音読劇の練習を行う。場面ごとの練習では、役を固定しないで、班ごとに全員がどの役も経験できるようにする。また、全体で音読の工夫について話し合う場面を設定し、物語の理解を深め、音読に工夫を加えたり、動作を加えたりすることをねらいとしている。

第3次では、「がまくんとかえるくん」シリーズの中から、もう一つ物語を選び、第2次のように進めていく。そして最後に、「お手紙」ともう一つの物語を1年生に発表し、今までの学習を振り返る。

3 単元目標

- ◎ 場面の様子や登場人物の行動が表れるように音読を工夫し、音読劇をすることができる。
【読・ア】
- 音読劇を行うことに関心を持ち、音読の工夫を考えながら学習に取り組もうとしている。
【関心・意欲・態度】
- 物語の場面の様子を豊かに想像しながら読むことができる。
【読・ウ】

4 評価規準

(1) 国語への関心・意欲・態度

- ・物語の読み聞かせを聞いて、音読の楽しさに気付いたり、音読劇で自分の思いを表現したりしようとしている。

(2) 読むこと

- ・人物の様子や気持ちを想像し、物語の様子が伝わるように工夫して音読している。
- ・登場人物の行動や出来事から場面の様子を想像し、お気に入りの場面を見つけ読んでいる。

5 指導計画（12時間）

段階	時間	学習活動（○）と支援の工夫（・）	評価
第1次つかむ	1	○音読劇を見て、音読劇を行うことに関心を持つ。 ・音読劇をするためにはどうすればよいか話し合い、音読劇をするための見通しをもたせる。	【関】音読劇を行うことに関心をもち、音読の工夫を考えながら学習に取り組もうとしている。（観察・発言）
第2次ふかめる	2	○「お手紙」を音読し、物語の全体をつかむ。 ・登場人物やあらすじを確認し、場面を分ける。	【読】場面の様子が表れるように音読の工夫を考えている。（音読）
	3	○1場面の音読を考え、音読劇練習をする。 ・1場面の音読の工夫を考え、音読シナリオを書かせてから音読劇練習をさせる。 ・行動や会話に着目させて、音読の工夫や動作を考えさせる。	【読】場面ごとに人物の行動と会話を整理している。（音読シナリオ）
	4	○音読の工夫を確認し、みんなの前で発表する。 ・班ごとに音読劇を発表し、感想を伝え合い、それをもとに工夫の見直しを行わせる。	【読】友だちの意見などを参考にして音読のしかたを見直している。（音読）
	5	○2場面の音読を考え、音読劇練習をする。 ・2場面の音読をどうするか考えさせ、音読シナリオを書かせてから音読劇練習をさせる。 ・他の人の音読を聞いて読み方や動きについてよかったところを伝えあわせる。	【読】友だちの音読を聞いて読み方や動きについてよかったところを伝えることができる。（発言）
	6	○3場面の前半の音読を考え、音読劇練習をする。 ・3場面の前半の音読をどうするか考えさせ、音読シナリオを書かせてから音読劇練習をする。	【読】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（音読）
	7	○3場面の後半と4場面の音読を考え、音読劇練習をする。 ・3場面の後半と4場面の音読をどうするか考え、音読シナリオを書かせてから音読劇練習をする。 ・がまくんとかえるくんの様子に気を付けてシナリオに工夫を記入させる。	【読】がまくんとかえるくんの様子に気を付けて音読することができる。（音読・音読シナリオ）
	第3次ひろげる	8	○「がまくんとかえるくん」シリーズの中から音読劇をするものを決め、場面を分ける。 ・登場人物やあらすじを確認し、場面を分ける。
9	○場面ごとの音読を考え、音読劇の練習をする。	【読】友だちの読み方のよさを取入れたり、自分の読み方を改善したりして、読	
10	・「お手紙」の学習を生かし、場面ごとに行動や会話		
11	に着目させながら、音読の工夫を考えさせる。		

第 3 次 ひ ろ げ る	12	○音読劇を発表し、学習を振り返る。 ・1年生に音読劇を発表し、今までの学習を振り返る。	み方を工夫している。(観察・音読・音読シナリオ)
---------------------------------	----	--	--------------------------

5 本時の指導 (7 / 1 2)

(1) ねらい

- ・手紙を待つ、がまくん、かえるくんの様子に気をつけて音読することができる。

(2) 本時の指導にあたって

本時は、がまくんとかえるくんが手紙を待つ様子を「行動」や「会話」から想像させ、個人で音読シナリオを書いて班ごとに音読劇の工夫をするという授業である。

(3) 展開

段階	学習活動と予想される児童の反応	支援の工夫 (・) と評価 (◎)
つ か む 7 分	1 前時までの学習を振り返る。 2 今日学習する場面を音読する。 3 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 手紙をまつ、がまくんとかえるくんの様子に気をつけて音読しよう。 </div>	
ふ か め る 30 分	4 課題を解決する。 ○音読シナリオに音読の工夫や動作を書き込む。 ○手紙の内容を知ったがまくんの言葉はどのように音読するか発表する。 ◇予想される児童の反応 ・「ああ。」は、ゆっくり読みます。 ・「ああ。」は、いいお手紙だと思って読みます。 ・「ああ。」は、あじわうように、ゆっくり読みます。 ・「とても いいお手紙だ。」は、いいお手紙だという気持ちで読みます。 ・「とても いいお手紙だ。」は、しあわせそうな気持ちで読みます。 ※ 工夫をした理由も話すようにする。 ○自分の書いた音読シナリオを見直す。 ○班ごとに集まり、役割を交代しながら音読劇練習をする。 ○班ごとに音読劇発表する。(2つの班) ○発表を聞き、音読の工夫が良かったところを発表	・かえるくんやがまくんの行動と会話に着目させる。 ・工夫が書けない児童には、前後の文とのつながりや、行動・会話に着目させ、その様子について想像させる。 ◎がまくんとかえるくんの様子に気をつけて音読すること

	する。	ができる。 (音読・音読シナリオ)
ま と め る 8 分	<p>5 学習のふりかえりをする。</p> <p>○本時のふりかえりを書く(ワークシート) 今日の音読の自己評価。よいと思った友だちの音読の工夫について書く。</p> <p>○本時のふりかえりを発表する。(2人)</p> <p>6 次の学習内容を確認する。</p>	<p>・本時の学習内容、友だちの音読の工夫についてワークシートに書かせる。</p>

(4) 板書計画

ふりかえり	本時のシナリオ	かだい 手紙をまつ、がまくんとかえる くんの様子に気をつけて音読しよ
-------	---------	--